



福島小学校だより

# ふくしま

No. 8

令和元年11月28日



ホームページ <http://www9.wakayama-wky.ed.jp/fukushima/>


## マラソン練習、頑張っています。

12月11日のマラソン大会に向けて、毎日5分間の練習を、2週間前から、大休憩の時に全校で始めました。最初は自分のペースがつかみにくい様子でしたが、練習を重ねるにつれて子供たちそれぞれ、自分に合ったペースで5分間走れるようになってきました。大会当日はそれぞれの種目である1・2年生は600m、3・4年生は1,000m、5・6年生は1,500mを自分のペースで目標タイムを決めて最後まで楽しく走れるように頑張りたいと願っています。目標は、子供たちみんなの体力向上です。マラソン大会が終わった後も、冬の寒さやインフルエンザウイルスに負けない、外で元気に遊ぶ福島っ子であってほしいと願っています。第29回福島小学校マラソン大会は、サイクリングロード市民スポーツ広場陸上競技場前をスタート・ゴールにして、3・4年生はスタートから500m地点、5・6年生は同じく750m地点を折り返しにして行います。なお1・2年生は、本校グラウンドで行います。1・2年生のスタートは10時10分、3・4年生は11時25分、5・6年生は11時40分です。応援よろしくお願ひします。

## 「カルテック」、学校でもできます。

前に学校だよりやお手紙でお知らせし、子供たちとお家の方全員にIDとパスワードをお渡しした家庭学習・自主学习支援システム「カルテック」が学校でもプリントアウトしたり取り組んだりできるようになりました。職員室前廊下に専用パソコンとプリンタを置いています。誰でもIDとパスワードを入力すれば問題をプリントアウトしたり、答えを入力したりできます。早速何人かの子供が自分のやりたい算数や理科の問題を印刷しています。自分のやりたいところをやりただけできます。どしどし使ってほしいと願っています。目標は子供たちみんなの学力向上です。もしIDやパスワードを無くしたとか、忘れたということがあれば遠慮なくお知らせください。再度お知らせできます。もちろん自分のID等を入力すれば、ご家庭のPCやスマートフォンでも問題に取り組むことができます。和歌山市で契約を結んでいるのでご家庭で使用されても料金は基本的にかかりません。どしどしご活用ください。校長 辻本 真吾

### 12月の学校行事予定です。

1 (日) 市P合唱祭	6 (金) 市音楽研究演奏大会	24 (火) 終業式
2 (月) 交通・挨拶指導 6年振替休業	7 (土) 子どもセンター行事(5年) P部四者会	11時50分頃下校 12/28~1/5は、学校が閉まっています。
4年ポッチャ体験(5・6限) 河北ブロック教育講演会	10 (火) パトリック英語活動 スクールカウンセラー来校	
3 (火) 集会発表 (2年、4・5・6年)	11 (水) 校内マラソン大会 クラブ	1/6 (月) 3学期始業式
4 (水) 集金日① いじめなくそうデー、委員会	12 (木) 校外児童会	11時50分頃下校
5 (木) 集金日② 1・2年パソコン教室(2・3限)	14 (土) 15 (日) 家庭科作品展 (和歌山市民会館展示室)	1/31 (金) 入学説明会
	20 (金) ALT来校	





# 1万年後の未来に残す土器づくり



5年生では、図画工作の学習で紙の造形、粘土の造形に取り組んできました。紙や粘土にはいろいろな表情があり、ねじったりめくったり、ひっかいたりすることで、その表情を生み出すことができます。とくに粘土には、力を加えることで変形し、力を無くしてもその形は変わらないという性質を持っています。何気なく遊んでいる粘土ですが、実は他の素材にはないとても面白い性質を持っているのですね。



そんな粘土の特性に気づき、しかもその粘土を焼くことで、より強固な器になることを知って生活の一部に取り入れてきた人々がいます。それが、縄文時代の人々です。6年生で学習する教科書によると、縄文時代の土器は約12,000年前から作られたそうです。石や骨などで作った道具を使って、シカやイノシシなどの動物や魚をとり、その身を調理したりするために土器を作ったと言われています。

そんな縄文時代の土器の中には、複雑な形や、不思議な模様がえがかれているものがあります。また、土でできた人形も存在しました(土偶といいます)。それらの不思議な模様、形にはなにかメッセージが込められているのではないかと考え、形や模様で気づいたこと、発見したことを話し合いました。その後、映像などを見て、土偶や土器には命の再生という意味が込められているのではないかと結論に至りました。



1万年以上も前の土偶や土器が令和のこの時代まで残り、どのような意味をもって作られたのか、どんなメッセージが込められているのか…私たちも、1万年後の未来の人々に話し合ってもらえるようなそんな土器を作ろうと、令和土器の作成に挑みました。制作にあたり、5年生で共通のマークをどこかに入れようと話し合い、「FS マーク(福島幸せ)」をデザインのどこかに入れることに。デザインを考えた後、和歌山大学の寺川教授にお越しいただき、器のつくり方を基礎から丁寧に教わりました。



今現在、しっかりと乾かす段階に入っています。その後焼き上げ、完成となります。どんな土器が出来るのかとても楽しみです。そして、1万年後の人々に「令和の時代にこの作者はどのような意図をもって作成したのか?」「この時代には〇〇が流行したのか?」「このFSとは何か?」などと、私たちと同じように語り合い、令和の時代に思いを馳せてもらえれば素敵だな、と考えています。

